



行政書士 MAP

福岡県行政書士会

広報部発行

第 10 回：目指すはあなたの「かかりつけ」行政書士

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。この「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士やさまざまな活動を行う行政書士をご紹介します。

第 10 回は、元新聞記者で定年後に行政書士に転身というキャリアを持つ『城戸行政書士事務所 城戸万之助会員』を訪ねました。

広報部(以下「広」): 本日はご多忙の中、お時間をいただきありがとうございます。まずは、行政書士になった理由についてお聞かせいただけますか？

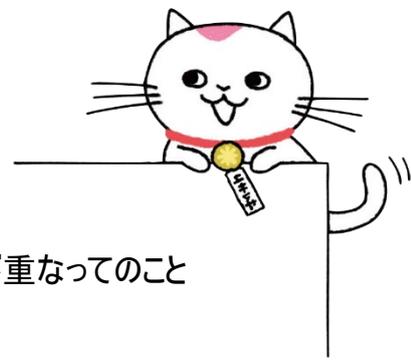
城戸会員(以下、「城」): 私の社会人生活は、新聞社の取材記者からスタートしました。そこからいろいろな部署に異動し、定年前には関連会社へ出向もしていました。記者時代は時間に不規則な生活だったのですが、出向先の上司が時間に厳しい方で。残業なんてとんでもない、退社時間もきちんと守れ、と言われて(笑)。せっかく時間ができたのでそれを利用しない手はないな、と思って資格の学校に通うことにしました。

1年通って、行政書士試験に合格することができましたが、会社にはそのまま勤めていました。その後、60歳を超えたとき、5年ほど前にかかった病気が再発して入院するはめになりました。一旦落ち着いたものの、またいつ再発するかわからないし、病気にはストレスがいちばんの大敵ですから、思い切って退職して行政書士を開業することにしました。

もともと定年後も何かしら仕事をしようとは思っていたのですが、会社員とは違う世界と言いますか、上司も部下もない仕事に就いてみたい気持ちもありました。

広: 最初は南福岡支部にいらして、令和5年の6月に北九州東支部に移っておられますね。





城: 家庭の事情と言いますか、北九州へ移ることになったのは偶然が重なったこと
です。

新聞社時代は北九州での勤務が長く、妻とは北九州で出会いました。私の転勤で
あっちこっち連れまわしましたが、最後の勤務地が福岡市で、そこに家を建てました。だ
から最初は南福岡支部にお世話になりました。

私の両親はもう他界しているのですが、家内の方は母親が北九州に住んでいて、母
親孝行したいからなるべく近いところがいい、という話になったことと、自宅の建物が古く
なって、建て替えか引っ越しかというタイミングも重なったので、北九州へ移ることにしまし
た。

広: 福岡から北九州へ移られて、お仕事への影響はありましたか？

城: 個人的には、福岡の方が「若い」と感じます。住んでいる方の実年齢もですが、
町としても若いし、ものの考え方や仕事のやり方も。そういう意味では北九州にきて、そ
れこそ年齢層だけでなく、昔ながらの流れというものを重んじるような雰囲気は感じてい
ます。

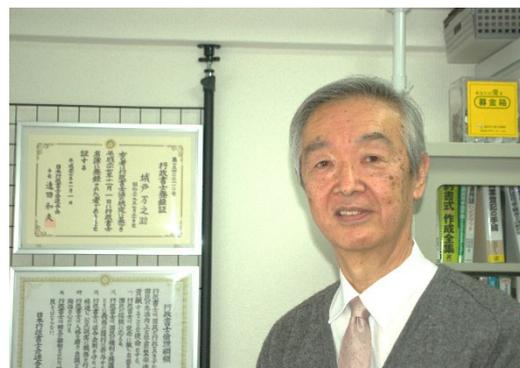
福岡の時も相続や遺言のご相談はありましたが、北九州へ移ってからはその比重が
増してきました。建設業や産廃業などの許認可の仕事もやってはいますが、これから少
ずつ手離していこうかなと。

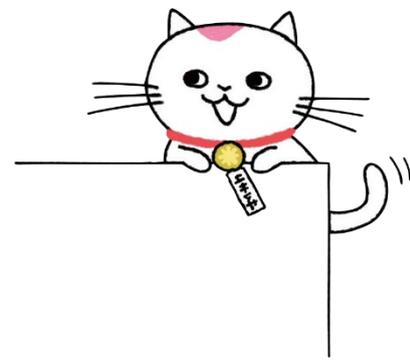
おかげさまでもう年金をもらえる年齢になったので、行政書士の仕事であんまり大儲け
しようとは思っていないんです。もちろん儲かるにこしたことはありませんが(笑)。北九州
の方が年齢層も高めですし、そういった面で行政書士としてお役に立てるのではと思っ
ています。

広: 城戸会員の事務所のホームページを拝見しました。難病患者支援の業務もさ
れるんですね。実際に業務をされたことはありますか？

城: 受けたことはまだありません。難病だと社会福祉協議会や NPO 等の支援も受け
られるのでそちらを利用する方が多いとは思いますが。ただ、私自身病気をしたこともあっ
て、アイデンティティの一つとしても看板を出し
ておきたいなという感じですね。

難病の手続き自体はそんなに難しくありま
せん。ただ、難病の方だと体調面で申請に行
くのが辛い、ということもあるでしょうし、そ
ういった方の選択肢の一つとして、お手伝い
ができればと思っています。他の業務もです
が、とに





かく心配事があったらちょっと来て相談してください、というスタンスですね。

広: 城戸行政書士事務所のホームページで、「かかりつけ」行政書士を見つけてください、って書かれていることにも通じますね。

城: 私にできることだったら一生懸命やりますし、できないことだったらできる人をご紹介します。行政書士は小さな町でも大体いるので、身近な人を見つけて相談してもらいたい。「行政書士」と言うとえらそうに聞こえますが、それこそ落語に出てくる横町のご隠居と思ってね。何か困ったら駆け込んできてよ、と思っているんです。

広: 城戸会員はコスモスふくおか(公益社団法人コスモス成年後見サポートセンター福岡県支部)でも活動されていますね。

城: 私自身がいい年齢なのもあって、実際に後見人をしているわけではないんです。ただ、相談会に行くと、後見に関するご相談やご質問も多く受けます。きちんとした知識でお話ししなければいけないですし、私はちゃんとした団体に入っていますよ、という証明書の代わりのような気持ちでやらせていただいている感じですね。

相談会は、総合的にお話をお伺いしないと、これは遺言の話です、相続の話です、って分けられないところってたくさん出てきますよね。だから、いろんな引き出しを持っていないと、お役に立てないと思います。

例えば、相続のご相談の中から、生前整理とか遺品整理とかしたいというお話につながることもあります。そうすると、信頼できる業者さんをご紹介しますね、となることもあります。そういう意味では、行政書士同士はもちろんですが、士業以外の人脈も大事にしないといけないし、広げていかないといけないなと思っています。

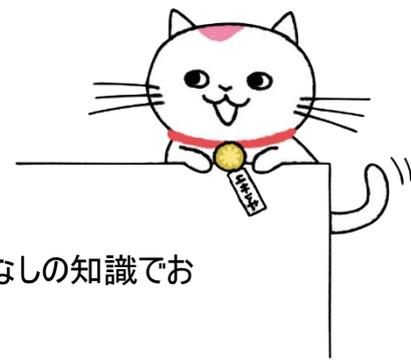
広: そういったネットワークはどうやって作られていますか？

城: やはり、相談会や人から人の口コミですよね。私自身、最初は行政書士の勉強会や相談会に参加させてもらって、そこから税理士や社労士さんとのつながりも広がって、仕事をお願いできるような関係を作れました

広: 60歳を超えて登録されたということですが、当初大変だったことなどありますか？

城: 還暦を超えて行政書士になって、最初に支部の相談員をやらせていただいたときは、もう心臓がバクバクでした。何を聞かれるかわからないじゃないですか。ほんとうに怖かったです。

一度、著作権の相談に来られた方がいらっちゃって。その時、まだ著作権の「ちよ」の字も知らないのに、相談者さんの方は下調べをして来られているようで、どう答えよう、と



冷や汗をかきました。はっきりとは覚えていませんが、自分の本当になけなしの知識でお答えしたような気がします。

ほかにも失敗はたくさんしているんだと思うんですが、多分自分で気づいていないんです(笑)。

広: 今では想像もつきません。行政書士の後にも、たくさんの資格を取られています。勉強は苦になりませんか？

城: 苦です！ 苦ですが、試験を受ける時の高揚感、試験場の雰囲気が好きなんです。もう頭が追い付かなくなってきましたが、今取りたいなと思っている資格もあります。落ちるかもしれないのでお話しませんが(笑)。

広: 行政書士には、セカンドキャリアで登録して、年齢を経て再び新人という方も多いいですね。

城: 大学を出てそのまま行政書士になろうという人の方が少ないですね。だから、行政書士としては新人かもしれないけれど、社会人としてはベテラン。みんなそれぞれ社会的なバックボーンがあります。私も新聞社時代に本当にいろいろな業務を担当させていただきましたが、社会経験があったことは無駄にはなっていないと思います。

業務に関しては、まず動いてみないと新しいことが身につかないから、とりあえずやってみることも大事だと思います。先輩からは「依頼を受けて、ノーと言ってははいけません。もしどうしてもノーと言いたかったら、『ノープロブレム』と言いなさい」と言われたこともあります。

ただ、どうしても自分でできないことは絶対にあるから、まず自分で調べてみて、手に負えないなと思ったら、臆せず人に聞くことも大事だと思います。

ほかの士業の世界は分かりませんが、行政書士って、自分の知識を抱え込まない気がします。例えば外国人業務をされている先生に、教えてください、って言ったらすごく親切に教えてくれる。私は還暦を過ぎて初めて行政書士の仕事をするので、知らないことをいろんな人に聞かないといけませんでした。だから、親身になって教えてもらって、本当に助かりました。

広: 本日は、ありがとうございました。



～行政書士プロフィール～

城戸 万之助(きど まんのすけ)

登録年月日:平成 27 年 11 月 1 日

事務所所在地:北九州市小倉北区真鶴 1 丁目 6 番 22 号ルネスマンション402



この記事は令和 7 年 5 月 1 日の情報です